

MIDORI NO TOHOKU

みどりの東北

No. 73

発行日 ■ 平成22年 4 月 発行 ■ 東北森林管理局
秋田市中通五丁目 9-16 TEL. 018(836)2192

ホームページ ● <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>



陽春の岩手山

(写真提供：盛岡森林管理署)

トピック

特集

「山火事予防について」

国有林野管理課

美しい森林づくり (地域発案システムの取組)

「体系的な森林環境教育の確立にむけて」

岩手北部森林管理署

我が署の隠れた名所

「滝の沢の一本杉」

山形森林管理署最上支署



東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



特集 コーナー

山火事予防について 貴重な森林を守るために

国有林野
管理課

東北地方でも桜が咲き、ようやく春らしくなってきました。この時期は、雪解けも進み空気が乾燥し、森林内に積もった落葉等が燃えやすい状態であるという自然条件に加え、行楽や山菜採りなどで山に入る機会が増えることから山火事が多発する季節です。

山火事は一度発生すると、地理的条件が悪く消火活動が困難であることなどから、焼失面積が大きくなりやすく、一瞬にして貴重な森林を消失することとなります。また、元の森林に復元するのに長い年月と多くの労力が必要です。発生原因としては、落雷などの自然現象によるものは極めてまれで、たき火やたばこの火の不始末など人為的な原因がほとんどです。

最近の平均では一年間に全国で約二千五百件発生しています。当局管内では、昨年七件発生し、約1haの森林を消失しました。



このように一瞬にして貴重な森林を消失することのないよう、当

局では、管内の各県、各市町村と連携して、警戒巡視を行い山菜採りや行楽者等の入林者に対して注意喚起を行ったり、林道入口などの人目のつきやすい場所に横断幕等を設置するなど山火事の予防に取り組んでいます。



貴重な森林を山火事から守るため次の点に注意してください。

- ・枯れ草等のある火災が起こりやすい場所ではたき火をしないこと。
- ・たき火の場所を離れるときは完全に消火すること。
- ・強風時及び乾燥時には、たき

- 火、火入れをしないこと。
- 火入れの許可は必ず受けること。
- たばこの吸いがらは必ず消すとともに投げ捨てないこと。
- 火遊びはしないこと。

皆様の御協力をお願いします。

消さないで 小さな命の 帰る場所

(平成22年全国山火事予防運動統一標語)

各地からの便り

宮城北部森林管理署

地元中学生による 手作り看板の設置

二月二十七日（土）、気仙沼市本吉町の三島国有林内において、気仙沼市立大谷中学校一年生の有志七名と先生二名が、手作りの「ゴミ捨て禁止」看板を三基設置しました。

この地域は、陸中海岸国立公園のすぐ南に続くリアス式海岸から牡鹿半島、金華山島までを区域とする「南三陸金華山国立公園」内に位置しており、特に大谷海岸内にある「大谷海水浴場」は、透き通った青い海と白い砂浜の織り成す美しさで環境省「快水浴百選」に選定されています。また、日本一海水浴場に近い

駅として知られるJR気仙沼線大谷駅もありま

す。



力を合わせて設置しました



設置を終えて

大谷中学校では、毎年、大谷海岸の清掃活動を行っており、この活動に参加した一年生が「ゴミ拾いをして海岸や松林がきれいになって良かった。でも、本当は清掃活動よりゴミを捨てないようにすることが大切では。」と感じたことがきっかけで看板の設置活動に取り組みました。

当日は、曇り空の中、生徒が中心となつて自分たちで考えた「ゴミを捨てる心も共に捨てている」「ポイ捨てをしたあとに残る罪悪感」「森林を守れば未来につながるよ」という標語が書かれた看板を一時間かけて設置しました。

いずれも来訪者の心に訴えか

けた標語であり、心ない人が一人でも少なくなることを願う次第です。

仙台森林管理署

治山事業の 見学会を開催

三月四日（木）、当署管内の金剛沢国有林において、一般公募による参加者二十一名と宮城県の治山担当者、仙台市の公園管理担当者の参加を得て治山事業の見学会を開催しました。

この地域は昭和三十年代前半に大きな地すべりが発生し、亜炭を採掘していた炭鉱夫二名の方が亡くなるなどの災害が起きた地域であり、また、昭和四十年代の高度経済成長期にあわせて急激な都市化が進み、東北自動車道と住宅地に囲まれ、国有林より下流側は全域が住宅地となるなど、防災対策上極めて重要度の高い地域となりました。このため、本格的な地すべり対策に取り組み、各種の溪間工事及び山腹工事、集水井やトンネル暗渠工などの地すべり対策工

事を実施しました。

現在は、継続的に地すべり観測・施設点検・機能保持のための工事を行っています。これまでの対策により地すべりは安定しており、生活環境保全林整備事業により遊歩道や広場、休憩施設等を整備したこと、から、「八木山治山ガーデン（治山の森）」の愛称で多くの地域住民の皆さんの憩いの場、自然観察の場などとして親しまれています。



八木山治山ガーデン（治山の森）の概況

当署では、このような市民生活に密着した地域で、各種多様な治山事業に取り組んだ地域は他にないため、治山事業を効果的にPRできる絶好の地理的環境ととらえ、さらなるPR効果



を發揮させるべく整備計画を策定することとしました。この一環として、利用者からの意見も参考にするため、地域住民約五百世帯を対象としたアンケート調査及び一般市民を対象とした見学会を開催しました。

見学会当日は、沢の手当をする溪間工（治山ダム）、山肌の手当をする山腹工（鋼製桎土留工）及び地すべり防止工事の集水井やトンネル暗渠工を見て回り、それぞれの箇所での治山課長から施設の詳細な説明をしました。

反響が大きかったのは、集水井を上からのぞき込んでもらった時で、集水井が地下水を集める仕組みや、地すべり後にできる特徴的な地形、地すべりの影響で立木が傾斜することについてなど多くの質問をいただき、地すべりへの関心が高いことがうかがえました。

見学後、参加者にもアンケート調査にご協力いただき、その結果、「山があるということは災害も発生するということがよく分かった」「治山の森にある施設の重要性・大切さを感じた」



集水井の仕組みに興味津々

「施設のことは分からなかったので新鮮な驚きで大変有意義であつた」などの感想をいただきました。

今後も八木山治山ガーデン（治山の森）を、森林とのふれあいを楽しみながら気軽に治山施設を見学できるフィールドとして多くの地域住民の皆さんに利用していただくため、治山施設の解説板設置など、利用者の意見も取り入れながら整備計画を策定したいと考えています。また、地元小学校等が総合学習の一環として金剛沢国有林を利用しており、小学生等を対象とした森林教室等も積極的に計画していききたいと考えています。

由利森林管理署

「木道等の設置整備により 湿原保護」桑ノ木台湿原 検討委員会より答申

三月十日（水）、第五回「桑ノ木台湿原の保全と保護に関する検討委員会」が由利本荘市内のホテルで開催され、湿原の保護と活用を図るため、木道等の施設整備（周回ルート）を行うよう署長へ答申しました。

同検討委員会は、レク森に指定されている桑ノ木台湿原が、近年、インターネット上で風景写真等が紹介されたことにより入り込み者が急増し、貴重な湿原植生が踏圧によって荒廃してきたことから、平成二十年七月に署長の諮問機関として設置され、約一年半にわたり熱心な論議が行われてきました。

今回答申された施設整備ルートは、湿原植生や周辺のブナ林等の観察ポイントに加え、鳥海山を借景としたレンゲツツジ、ワタスゲなどの自然景観ポイントがルートとなっています。また、木道は桑ノ木台湿原の泥炭

層厚などを考慮し、基本的に据え置き型としながら、基盤との間に支柱を付けた沈込み防止の機能を備えたものとなっています。

今後のスケジュールは、雪解け後に改めて現地でルートの選定を行うとともに、ルート上の泥炭層厚などの詳細な調査を実施した上で、平成二十二年年度に木道を作設する予定となっています。

なお、湿原への入り込みを禁止するなどの緊急保護対策は、平成二十二年も継続して実施することとしており、同湿原の探勝等は平成二十三年以降となる予定です。



湿原保護のための熱心な論議



美しい もり 森林づくり

(地域発案システムの実践)

体系的な森林環境教育の確立にむけて

岩手北部森林管理署

東北森林管理局管内の十八森林管理署と六支署では、それぞれの地域のニーズに即した課題に、地域住民の方々や地方公共団体、NPO法人等と連携しながら取り組んでいます。

今号からこのコーナーでは、各森林管理署等が地域の皆様と取り組んでいる様々な課題（地域発案システム）について紹介していきます。

岩手北部森林管理署では地域発案システムの一環として、平成十六年から教育現場と森林インストラクターの連携による、体系的な森林環境教育に取り組んで来ました。



室内での事前学習

平成二十一年度も八幡平市の安代小学校や田山小学校の五年生を中心に一年間に五、六回の森林学習を実施し、教科や学習指導要領とリンクした効果的な内容のものを先生方と進めてきました。

今回は、森林学習の一例と、これから森林環境教育に取り組んでみたいと言う、森林インストラクターの方の道具箱として開発した「森林環境教育サバイブパック2」を紹介します。

室内での学習

第二回 田山小学校森林教室

平成二十一年五月十二日（火）、八幡平市立田山小学校において、五年生八名を対象に、野外での森林学習の前に子供達の森林への興味を高めるための室内学習を行いました。

当署職員三名が講師となり、森林の不思議や樹木の花と草本の花の違いについて、子供達が「なぜだろう？」と感じることに主眼を置きました。

まず初めに、子供達に「スギやブナなどの樹木に花が咲きますか？」と質問したところ、「咲かない」という回答が圧倒的でした。

そこで、スギ花粉やどんぐりの話をしたところ、見たことないだけで、スギやブナなどの樹木にも花が咲くことに納得していました。

次に、国語の授業で、「たんぽぽの知恵」や「サクラソウとトラマムルハナバチ」についての学習があったので、樹木の花と草本の花の違い、風を利用しての受粉や虫を利用しての受粉についての勉強をしました。

「花は何のために咲くのかな？」のまとめとして、種や実の意味、一粒一粒が「いのち」であることを学びました。

最後に、紙で作ったアカマツの種の模型を飛ばす実験をしました。子供達は、アカマツの種がプロペラのように回転しながら遠くまで飛んでいく様子が夢中になり、昼食の時間になったのも忘れて実験を繰り返していました。



「これは何の花？」



アカマツの種飛ばし

野外での学習

第二回 安代小学校森林教室

平成二十一年六月三日（水）、八幡平市あつぴ高原遊々の森・あつぴブナ二次林において、八幡平市立安代小学校五年生二十四名を対象に、気づきをテーマに子供達の「なぜだろう？」を大切にした森林の働きについての学習と実験を行いました。

職員六名が講師となり、草原の植物やブナ二次林の観察、模型を使った地滑り実験と地滑りによってできた黒滝の見学、ネーチャーゲームを行い、子供達が、普段、何気なく見ている風景に、新たな「なぜだろう？」に気付くことに主眼を置きました。



植物の特徴を調査中

まず初めに、五班に分かれ、約一時間半かけて、ブナ二次林で植物等の観察をしました。ここでは講師役の職員が教えるのではなく、子供達が

- ①セミや小鳥の声など自然の中の音
 - ②植物の色や形の違い
 - ③草原や森の中の見たことのない物
- に自ら気付くことをポイントに観察を行いました。

このため、植物の名前も、色や形から自分達で推理してみたり、わからない植物は、特徴をメモしたり、デジカメにとって、学校で調べることにしました。



治山ダムの役割を学習

模型を使つての実験では、発泡スチロールの箱を使い、木の生えた森林とはげ山の二つの模型を作り、水をかけて雨が降った状態を再現しました。はげ山の模型では土が流れ出しましたが、森林の模型では土が流れ出ない様子を見て森林の役割を学習しました。また、石を治山ダムに見立てて模型の中に置いたところ土砂が流れ出なくなり治山事業の役割も学習しました。

森林環境教育 サービスパック2

当署では、参加する児童が「気づき、考え、理解する」森林環境教育を進めるために、導入する際のポイント等を示した「森林環境教育サービスパック」を平成十七年三月に作成しました。

今回、作成後四年が経過したのを契機に、この間に蓄積された森林環境教育での問題点や課題等を反映させ、教科（社会・理科・総合等）との連携を図るため「新しい学習指導要領」との比較をし、「フィールド植物図鑑」、「森林学習実践ビデオ」、「緑の回廊の仲間たち」の内容をリニューアルした「森林環境教育サー

ビスパック2」を作成しました。

この「サービスパック2」を活用することで、森林インストラクターと学校との連携をスムーズにし、教育効果の高い森林環境教育を実践できる内容としています。また、新たに森林環境教育を導入してみたい学校側にもイメージがとらえやすい構成となりました。

当署職員による手作り感のある内容となっておりますが、まだまだ不備な点も多いと考えています。今後皆様からの、ご意見・ご指導をいただき改善を図って行きたいと考えていますので、森林・林業に携わる方、教育関係者の皆様にご活用していただければ幸いです。



森林環境教育サービスパック2



イベント情報

E V E N T

恒例 もり いち 森林の市 開催



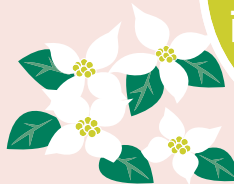
期 日

平成22年5月8日(土)
10時～14時

実施
場所

アゴラ広場及び
秋田駅前中小路地内

先着250名に
ヤマボウシの
苗木プレゼント



山菜・木製品等を販売します。
木工品・クラフト製作もできます。

仁別森林博物館 5月1日(土)から 開館

***詳細につきましては**

東北森林管理局ホームページ
[http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/
introduction/gaiyou_kyoku/annai/nibetu/
index.html](http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/introduction/gaiyou_kyoku/annai/nibetu/index.html)
をご覧ください。

開館
期間

平成22年5月1日(土)～平成22年11月3日(水)

開館日

金曜日～月曜日、祝祭日

開館
時間

午前10時～午後5時
(ただし、10月以降は午後4時まで)

その他

ボランティアの皆さんが館内とその周辺の森林について案内します。
また、各種イベントを企画しております。





新任者略歴紹介

4月1日付

●岩手北部森林管理署長●

のとうまさひろ
野藤 昌弘
(青森県)



55・4 青森局人事課採用
16・4 東北局企画調整室監査官
18・4 東北局経理課長
20・4 林野庁管理課課長補佐

●盛岡森林管理署長●

いとうふみひこ
伊藤 文彦
(三重県)



53・4 農林水産省入省
14・7 関東局総務部長
16・4 (独)林木育種センター海外協力部長
20・4 (独)森林総合研究所森林農地
整備センター中国四国整備局長

●米代西部森林管理署長●

くりばやしあきら
栗林 晃
(東京都)



57・4 農林水産省入省
4・4 青森局鰐ヶ沢署長
19・2 森林技術総合研修所
首席教務指導官
20・12 九州局大分西部署長

●久慈支署長●

わやまふみよし
和山 二三吉
(岩手県)



48・4 青森局岩泉署採用
16・4 東北局三八上北署次長
18・4 東北局岩手南部署次長
20・4 東北局青森事務所副所長(連絡調整)

●青森事務所副所長 (連絡調整)●

つないぐちたけし
津内口 雄士
(岩手県)



51・4 青森局人事課採用
18・4 東北局三八上北署次長
20・4 東北局青森事務所副所長(技術指導)
20・12 東北局企画調整室監査官

●森林技術センター所長●

よしだひとし
吉田 等
(秋田県)



46・4 秋田局矢島署採用
17・4 東北局総務部企画官
18・4 東北局米代西部署次長
20・4 東北局計画部企画官

ミニコラム



へえ～
そうなんだ

春のチョウ

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター所長
青山 一郎

やっと雪が消えたばかりの日溜まりで羽を広げるタテハチョウ。成虫越冬の彼らは早春の花より先に春を告げます。冬越しで強引に狭い隙間に潜ったのか、ボロボロに擦り切れた奴もいます。

とある観察会で。「このチョウの脚は何本？」の問いに、さすが「6本」と知識で答える子と、観察して「あれ？4本？」と訝る子。タテハ類の前脚は退化して味覚センサーになっているので、脚は一応6本ありますが、どう見ても4本脚なので、どちらも正解。私としては「4本」の子に◎。ご確認ください。

春の妖精ギフチョウは、タテハの出現よりも少し遅く、カタクリの咲く頃に羽化します。山形がほぼ北限で東北局管内では近縁のヒメギフの方がメジャーです。



①ギフチョウ



②ルリタテハ



③クジャクチョウ

本州さいはての村 東通で勤務して

下北森林管理署
東通森林事務所

鶴田直人

(現 三陸北部森林管理署業務第二課)

森林官からの
投稿

東通村は青森県下北半島の北東部、津軽海峡と太平洋を望む場所に位置し、なだらかな丘陵地帯に森や沼、牧場が広がっています。

村内には29の集落が散在し、各集落では能舞をはじめ、獅子舞、大神楽、田植え餅つき踊りなどの独特な民俗芸能を受け継いできました。本州にあり陸続きでありながら、以前は役場が隣のむつ市にあったという珍しい村です。



寒立馬と津軽海峡

愛くるしい寒立馬が放牧され、牧歌的な風景が印象的な尻屋崎をはじめ、太平洋から大量の砂が吹き上げられ、立ち枯れた

まま埋まって残った猿ヶ森ヒバ埋没林などが有名です。また、ブランド牛・東通和牛や冷涼な気候を生かした東通そば、大型ホタテやイカ、ウニをはじめとした新鮮な海産物などが特産品で、食べ物の美味しい土地柄です。

東通森林事務所はこの東通村の国有林約3,200haを管轄しています。さらに官行造林地が約60haあります。また、併任の老部森林事務所では東通村とむつ市の国有林約5,800haを管轄し、日々収穫調査や造林監督、境界管理などの業務にあたってきました。

部内の国有林は東通部内旧御料林のアカマツ林や、老部部内を主体にヒバなども見られますが、生育途中のスギ人工林を多く抱え、現在はその保育・管理が大きな仕事となっています。また東通森林事務所部内は国有林が点在、入り組んでいるため、境界が長いこと



尻屋崎灯台

も大きな特徴です。

地元の人々との交流も盛んな土地柄で、森林官は様々な行事に呼ばれ、出席しています。なかでも毎年夏に行われる「ひがしどりよさこいかさまい祭り」では、歴代の森林官が地元チームの一員として「よさこい鳴子踊り」に参加しています。普段は静かな東通村も、この日ばかりは華やかな熱気にあふれます。



ヒバ埋没林

着任当初は不慣れな業務や方言、冬場の雪に悪戦苦闘していましたが、日々の業務や生活の中で、地元の人々と関わり、現場を肌で感じ、地元の方々や職員の皆さんの手助けを受けながら、大変楽しく貴重な経験をすることができました。また地元に駐在する森林官として、現場をよく見ることで、地元の方々とコミュニケーションを取り生の声を聞くことで、業務を行っていく上で重要だと感じ、実践して来つもりです。

現在、東通村では、原子力発電所が稼働し、それと共生した村づくりを進める中で、小中学校が統合されるなど環境が大きく変化する中にあります。私が手がけた山の成長のみならず、一時を過ぎた村民として、村の将来も大変興味深いところです。

また、我が東通森林事務所も大きな変化を遂げました。50年にわたり風雪に耐えてきた森林事務所が平成21年度に建て替えられ、快適な環境の中で新たな歴史が始まりました。新しい森林事務所が国有林の顔としてこれまで以上に役割を発揮されるよう願っています。



事務所にて

我が署の隠れた名所

山形森林管理署最上支署



滝の沢の一本杉

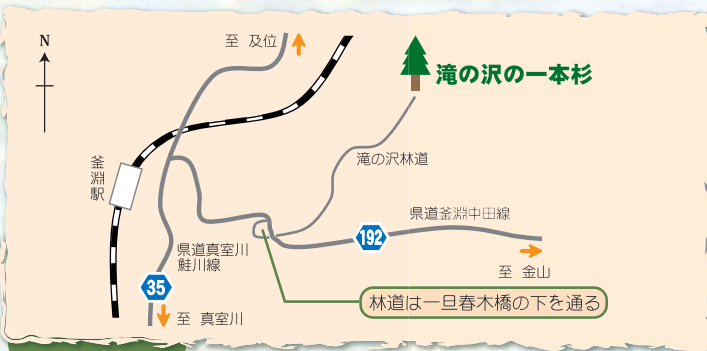
たき さわ いっぱんすぎ

山形県最上郡真室川町釜淵の滝の沢林道の終点に、「滝の沢の一本杉」が生育しています。約八〇年生のスギ人工林に囲まれています。約「一本杉」の名のとおりその大きさは一目瞭然でひととき目立っています。

幹周りは一・五八m、樹高は四九mで、樹齡は三〇〇年以上と推定され、最上支署管内国有林で「森の巨人たち二〇〇選」に指定されている三本の巨木のうちのひとつです。

また、山形県指定の天然記念物ともなっています。

古くから山の神信仰の対象として地元住民から崇められてきた樹木で、以前は根元のところに祀られていた石がありました。この木が生長するに従い抱え込んでしまいい、現在では幹の中に完全に取込まれてしまっています。



交通
アクセス

主要地方道釜淵中田線の春木橋から滝の沢林道に入り、車で20分。
なお、滝の沢林道は未舗装の国有林林道です。

お問い合わせ先

〒999-5312 山形県最上郡真室川町大字新町字下荒川200-11
電話番号:0233-62-2122 FAX:0233-62-2706